

令和5年第1回吉備中央町議会定例会一般質問通告まとめ

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
1	1	日名義人 (一問一答)	デジタル田園健康特区について	<p>交付金運用のデジタル田園健康特区指定事業は体制整備、実装化が進み、次いで本格運用の段階に入るが、住民間の評価は今一歩か。気がかりな点を提起。</p>	町長
			1. 取組みの現状と課題について	<p>①情報の集積とAIの駆使の産学での開発・サービスが、初期段階とは言え、住民要求にマッチしているか、すれ違いも感じるがどう思うか。</p> <p>②この初期段階の試行(実装化)に「地域事情を踏まえ、住民要求に対応してきた主体・官(自治体・職員集団)の力量が生かされる」体制となっているか。</p>	
			2. 個人情報保護条例の改廃との関連について	<p>データ連携基盤づくりでの危惧について、</p> <p>①今、「個人情報の保護に関する法律」制定に伴い、「町条例」の改廃が進行中、当法の制定目的や、その具体化、先日提示の本町の「DX基本方針(素案)」、「標準化を検討する20業務の一覧」を見ても、警戒心を抱くがどうか。</p> <p>②また、「データ連携基盤」の形成に自治体情報の「法の言う、匿名加工化」した情報の集積の危惧なども生じるやに。この作業過程においても個人情報保護の原則が貫徹されるのか。</p>	町長
農村・農業問題について	<p>町長施政方針でも言及された「農業が基幹産業・農業立町」の本町の今後の対応策を聞く。</p>	町長			
1. 当面の対策と持続可能な農業確立策について	<p>①畜産・酪農家の窮状とその背景が明らかになる中、本町の緊急支援は歓迎されている。が、事態は次の支援策を求めていると思うが、その対策は。</p> <p>②今、大小、各種農家も高齢化の上に農業資材の高騰で廃業、耕作放棄の危機が深刻化している。一方、食糧安保が言われ、「食糧・農業・農村基本法」の改正の期とも重なり論議が活発化している。</p> <p>この機に国の枠、追随を超えた主体的な持続可能な農業を目指す「町農業振興策」を持つ、そして町民・農家の力を結集する本気の取組みをスタートさせないか。</p>				

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
2	9	成田賢一 (一問一答)	人口減少への対策について	町が令和元年度(令和2年3月)にまとめた、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口減少グラフでは、令和7年頃に1万人を割り、令和42年には5,337人になると予測されている。一方、町による施策の成果が上がれば、令和42年に8,381人を維持する目標を立てている。	町長
			1. 創生総合戦略と現状について	①現状をどう考えるか。 ②新生児誕生などのKPIの達成状況は。	
			2. PR動画やSNSについて	町の公式PR動画では、「町長逮捕」や「有罪」など、冗談でも口に出せない言葉が目立つ。  ①この動画の意図は。 ②昨年の3月議会で、町長自らがSNSなどで考えやまちづくりへの思いを発信すべきと提案した際、前向きな答弁であったが、現在まで発信を開始している形跡はない。 なぜ発信をしないのか。	町長
3. 子育て支援について	町では子育て支援や定住支援に対し、様々な事業を行っている。  ①2月22日のベビーファースト宣言や日本青年会議所のベビーファースト運動への参画が発表された。美咲町、高梁市、吉備中央町、3市町での取り組みの推進の内容は。 ②町ではPR動画から分かるように、子育て支援や定住支援に関しては、一種のパラマキの事業を行っているように見える。実際に、ずっと町内に住んでいる方や高齢者から「ずっとこの町に住む私らには何もないんか?」という声も聞く。このような声に対し、パラマキに見える事業をどう説明するのか。  全町的に子育てしやすい町を作り上げていくためにも、総合的なものの見方・考え方が欠かせない。  ①子育ての支援事業をたくさん行っているものの、どれが「看板メニュー」なのかわかりにくい。そこで、「吉備中央町の子育て支援事業といえば、これ!」と言えるような、「看板メニュー」を子育て推進課と保健課に尋ねたところ、それぞれ「子育て世帯応援金・キッズパーク」「小児等医療助成・母子健康手帳のデジタル化」が挙げられた。 なぜ、これらが町の看板メニューなのか。その内容とともに教えてほしい。 ②町の創生総合戦略におけるKPIの達成やよりよい子育て支援事業の実現に向けて、各事業の改善点はあるか。	町長			

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
(2)	(9)	成田賢一 (一問一答)		<p>③リーサス(内閣官房のデジタル田園都市国家構想実現会議事務局及び内閣府地方創生推進事務局が運用している地域経済分析システム)によると、町の地域経済循環率は2015年は74.8%、2018年は69.5%であった。今後、町づくりを進めていく上で、この循環率を高めていくか。または、現状を維持する、もしくは下がっても良いか、どちらの考え方か。</p> <p>保育園や幼稚園などの統合や、小学校の統合を前向きに考えれば、子育てしやすい町、教育のまちづくりのチャンスでもある。</p> <p>①統合をチャンスに変えるために、どのような教育環境を作っていくのか。 ②より良い学習環境や通学環境の提供のために、町が行っていることは。</p> <p>デジタル田園都市国家構想推進事業ではDXのみならず、GXの方面からも、国は将来に向けて国づくりを始めている。</p> <p>①DX、GXの観点から、町の子どもたちにとって良い環境づくり、町づくりにおいて、今後どのような展開を図っていくのか。</p>	町長
			4. 定住支援について	<p>町では定住支援のために、定住支援ブックを作成している。また、移住してこられた方々を対象にアンケートも実施している。このアンケートをもとに考えると、今後の移住者増を目指すとき、定住支援ブックや町HPなど、移住に関する発信に際し、記載すべき内容は何か。</p>	町長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
3	11	西山宗弘 (一 括)	人材確保、育成について	職員・教員・保育士等の人材不足について、何か対策や考えはあるのか尋ねる。	町 長 副町長 教育長
			公共交通の対策について	現在の状況を尋ねる。	町 長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
4	10	渡邊順子 (一 括)	有害鳥獣対策について	<p>有害鳥獣による農作物への被害状況は、どうなっているのか、ここ数年の傾向と現状を尋ねる。</p> <p>農業者に対する支援、狩猟者・駆除者の費用負担はどうなっているのか。</p> <p>また、駆除するにあたって、特に猪については、駆除、捕獲後の革加工やジビエなど、そして残さ等の処理について尋ねる。</p>	町 長
			地域猫について	<p>いろいろな場所で、野良猫の被害に困っている話を聞く。一方で地域猫活動が行われているという話も聞く。</p> <p>この地域猫活動も、ほぼボランティアで活動をされている現状である。ボランティアでの活動には限界があるのではないか。</p> <p>「生きるものに優しい町づくり」を推進している町としての考えを尋ねる。</p> <p>また、飼い主も知らない間に多頭飼育に陥り、様々な問題が発生してくる。この問題に取り組むべき対応策を考える必要があるのではないか。</p>	町 長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
5	7	山崎 誠 (一問一答)	公共交通について	2月21日地域公共交通会議が開かれ、民間路線バス、町営バス、タクシー関係など公共交通の現状、利用状況、財政支出、住民ニーズを総合的に検証し、公共交通全体の事業計画案が示された。 以下2事業について尋ねる。	町 長
			1. デマンドタクシーについて	健康特区の交通 DX プロジェクトと連携して、運行便の指定を行わず予約に応じて運行するとの見直し案は利便を高められると思われるが、運行範囲やルートの見直しは具体的にどのようなになるのか。	
			2. ふれあいタクシーについて	この事業は65歳以上の高齢者、障がい者、妊産婦を対象に3分の1の助成を行っている。利用区域は町内限定のため従来から買い物、病院など生活圏の違いにより居住地域によって利用格差が生じていた。  ①町外利用も検討するとの方向が示されたが、利用者ニーズ把握はどのように行うのか。また、病院、買い物など利用範囲はどうするのか。 ②民間路線バスとの利用競合という難題もあるが、利用者の負担軽減のため助成3分の1から2分の1に拡大すべきではないか。	町 長
			自治組織再編の現状と課題について	人口減少や高齢化が進み集落機能の低下や集落そのものの存続も危ぶまれるなかで、2015年2月、自治組織再編の答申が出された。 その後8年が経過し、人口は当時の1万2,355人から1,862人、15%強減少し1万493人に、高齢化率は37.62%から4.79ポイント増加し42.41%になっている。 自治組織の現状と課題を尋ねる。	町 長
1. 自治組織数の推移と課題について	答申当時の自治組織は賀陽エリア102、加茂川エリア36であった。現在、賀陽、加茂川各エリアの自治組織数、及び自治組織を構成する最少世帯と最大世帯はそれぞれ何戸か。また、組織再編での課題は何か。				
			2. 集落機能維持の課題について	自治会には、地域行事、道路の維持管理、行政連絡、防火・防犯・防災活動、環境美化、地域福祉などさまざまなコミュニティ活動が求められているが、集落機能を維持する上でどのような課題が出ているか。	町 長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
(5)	(7)	山崎 誠 (一問一答)	3. 課題への対応について	課題解決に向けた具体的な方策は立てているか。	町 長
			地域の生活基盤維持強化について	2019年7月、新山地区で小さな拠点づくり事業がスタートし、商店運営、通院、交流活動など生活の不便を地域住民の手で解決する取り組みが行われ、地域の元気を創り出している。	町 長
			1. 新山地区の取り組みの評価について	地域の活性化に大きく貢献していると思うがどのように評価しているか。	
			2. 地域の生活基盤形成の構想について	多くの地域で人口減少が進み、商店の閉店、ガソリンスタンドの閉鎖など生活基盤が縮小している。採算優先の民間企業では将来に亘って地域の生活基盤を形成することは困難である。地域住民の協同事業が鍵であり活路を拓く考えるが、構想はあるか。	町 長
3. 農村RMOの活用について	農水省は農村RMOを提唱し、農業生産だけでなく、集落の生活維持に必要な地域運営に予算をつけている。この事業を本格的に取り入れ、担当職員を置き、強い地域コミュニティの形成、維持、強化に取り組む考えはないか。	町 長			

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
6	6	河上真智子 (一問一答)	町内の観光振興について	アフターコロナを見据え、観光を促進し交流人口を増やす取り組みが必要である。	
			1. 今後の取り組みについて	滞在型観光、交流人口を増やすために必要なものは何か。	町長
			2. リピーターの獲得について	観光客が求める「見る、知る、味わう・買う」の要素は充実しているか。	町長
			3. 重森三玲氏の業績について	観光・文化資源として、今後どのように活かすとともにどのように周知を図るのか。	町長
			4. リピーターの定着について	町内観光のミニツアーを企画し、支払いにベリーぐっどカードやきびアプリを活用することで、定着率の向上が図れないか。	町長
			5. ガイドの育成について	地元を良く知ってもらうためにも、ボランティアガイドの育成が必要ではないか。	町長
			6. イベントの支援策について	地域のボランティアが運営するイベントは、担い手の高齢化や減少に悩んでいる。何らかの支援策が必要ではないか。	町長
			7. 滞在型観光について	年間を通じての参加や宿泊を伴う『自然農法体験』ツアーの企画など、今までと異なる視点、新たなニーズに沿った取り組みが必要ではないか。	町長
			医療体制の整備について	町内の医療体制の整備は、安心して在宅生活を送るためにも、町民のニーズが最も高いものである。急性期病院を退院し、自宅に帰る前の受け皿となる基幹病院の体制整備は不可欠であり喫緊の課題である。	
			1. 吉備高原医療リハビリテーションセンターとの連携協力について	基幹病院としての役割を果たすためにも、行政との連携協力が不可欠であるが、今後の関係性のあり方をどのように考えているか。	町長
			2. 奨学金制度の創設について	看護師の育成は急務である。特化した奨学金制度を創設し、安定的に確保できる体制づくりが必要ではないか。	町長
			3. 就業給付金の額について	新たに就業する看護師の就業給付金制度について、現状に合った金額の見直しが必要ではないか。	町長
			4. 宿舎の確保について	確保策の一つとして宿舎の確保も必要である。単身から家族向けまでの住宅を確保するためにも、町営住宅の整備・供給が必要であると考えが対応はどうか。	町長
			5. 包括的な医療環境の整備について	デジタル田園健康特区の他市での取り組みの実装に備えて今のうちから準備を進める必要があるが、その点に関してはどうか。	町長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
7	5	丸山節夫 (一問一答)	デジタル田園都市国家構想交付金事業について  1. デジタル田園都市国家構想事業について	令和4年度事業の主な実施内容は、タイプ1として、①交通DX実装プロジェクト4例、②鳥獣対策4例、タイプ3として、誰一人取り残さないエンゲージメント・コミュニティ6例である。 今回、タイプ1に係る令和4年度のまとめ、及び令和5年度事業継続に関し、次の5点について問う。  ①個々の予算額と執行見込み額について ②事務事業の評価(事前事後評価)による効果検証はどの様になされ、まとめられるのか。(作業内容等) ③評価に際し、各事業の課題、問題点を現状では如何に捉え、今後、町民の期待に即すのか。 ④事業の評価結果の公表の有無、方法はどの様になされるのか。 ⑤令和5年度に引き継ぐための改善点(個々の事業に対し主だったもの)の対策は如何に進められるのか、具体的内容を問う。	町長
			農業振興について  1. 頑張る農家応援事業について	当該事業は、令和4年度で事業を終了するが、新たに新年度予算案として、3,500万円の予算計上がなされた。 対象機種の扱い(拡充)についての内容を問う。	町長
			2. 地域密着型農政懇談会の開催について	こと世界情勢の変貌や円安等、異常な物価高騰により、営農環境は更に厳しさを招くと予想する。この厳しい折だからこそ、生産現場の課題や要望に関する情報共有や提供、営農指導など、相互間の話し合いの場は必須と考える。生産者の声を聞き、何でも話し合える機会や支え合える雰囲気づくり、連携の仕組みづくりの必要を強く感じる。 対する町長の考えを問う。(JA・県等、関係機関と連携し、行政が軸となる多面的、密な連携の確立の必要性。)	町長
			福祉行政について  1. 日常介護予防について	今日、町は高齢化の波が急速に進む現状で、いかに健康寿命を延伸し、高齢者本人や家族、地域が元気で過ごせることが最も大切と感じる。 これを踏まえ、次の3点を問う。  ①認知症対策について(これまでの取り組みと今後の事業計画) ②地域介護予防活動支援事業(通いの場支援・通所付添サポート活動支援)、高齢者ふれあい交流事業に対する行政評価と今後の必要性、方策について。 ③高齢者の日々の暮らしの見守りや、ともに共存できる福祉行政としての基本的概念を問う。(新規事業：高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業の内容も含め。)	町長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
8	2	加藤高志 (一問一答)	委員委嘱の在り方について	1917(大正6)年に岡山県で誕生した「済世顧問制度」を始まりとする民生委員は、地方公務員法規定の非常勤地方公務員として民生委員法14条により、①住民の生活状態把握等の社会調査、②生活に関する相談・助言その他の援助、③福祉サービスを適切に利用するために必要な情報の提供、④社会福祉事業者へ連絡通報し密接連携、⑤福祉事務所その他の関係行政機関の業務に協力、⑥住民福祉の増進を図るための生活支援等の活動のほか、⑦児童委員を兼ねて民生委員法10条により『無給で7項目の活動』をされている。	町長
			1. 民生委員の処遇について	平成7年では町内の産業別就業率がほぼ三分割であったが、近年は75%以上が第1・2次産業の会社員であり、成り手不足も深刻である。老々介護の情勢下、民生委員の委嘱現状に関し、地方自治法の規定を踏まえつつも処遇を含めた現況に対する認識を尋ねる。	
			2. 成り手不足について	地方自治法規定による農業委員会、教育委員会、選挙管理委員会等の委員以外の各自治会内の委員についても前項と同様な問題があると思うが、28年前から顕著な産業別就業率の変化及び人口減少推移をどう分析し「成り手不足解消策」を如何に打ち出してきたのか及び現委員種類の是非(必要性)ならびに処遇見直しを含め認識を尋ねる。	町長
			中学校の部活動について	9・12月定例会でも質問した「公立中学校の休日部活指導の地域移行」、規制改革推進期間でもある現在の移行準備状況を尋ねる。	教育長
			1. 地域移行の準備について		
2. 専門職の配置について	小学校統合後のアフタースクールとも一貫させつつ生徒達に様々な体験を実現させる為には、関係機関及びプロを含め地域クラブ・卒業生・兼職希望の兼業教員等と、スポーツ・文化を通じ総合的に企画調整する専門職員等で編成する専門チームの設置が不可欠と思うが、認識を尋ねる。	教育長			
ふるさと米について	1. 目的達成状況について	出荷する町内産コシヒカリの募集目的は、税収増・PRの他、①農業活性化②農家所得・生産意欲向上③元気の創出と掲げているが、深刻な担い手不足への対応策はもとより、①～③の目的達成状況について尋ねる。	町長		

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
(8)	(2)	加藤高志 (一問一答)	2. 品質管理について	2/10に「第1回吉備中央町大規模経営体組織化研修会」が町内外10団体参加のもと藤田公会堂で実施された際、先般農水大臣賞を受賞した「大明神農事組合」の講演でも品質管理の重要性が話題となったが、種子購入伝票や台帳に基づく作付けの確認及び苗配布時の誤配防止について、その管理体制を尋ねる。	町長
			3. 自然米の差別化について	農地の持続化が求められる中、自然栽培に近い状態の米も「ふるさと米」に混在していると聞くと、区別化し「ふるさと自然米(仮称)」として販売し増収を検討すべきではないか。また、「ふるさと米は〇〇だから美味しい」といった農法・食味検査結果・購入者コメント等を活用し、美味しさの理由を具体的かつ積極的にPRすべきと思うが、認識を尋ねる。	町長
			職員の再任用について  1. 継承と育成について	少子化の折、生え抜き職員の減少が目立つが故、吉備中央町の特性を熟知した職員による「若い行政サービスマン(職員)育成」の重要性を感じる。「継承・育成」を新しい役割の一つとして、一層積極的に定年者を再任用し行政サービスの向上を図るべきと思うが、今後の定年者数推移を考慮した再任用方針を尋ねる。	町長
			マイナンバーカード保険証について  1. 確認書の扱いについて	政府は2024年秋に現行の健康保険証を廃止し、マイナンバーカードと一体化した「マイナ保険証」に切り替える政府方針を巡り、マイナ保険証を取得しない人を対象に「資格確認書」を発行する方向で調整に入っており、経過措置として、現行保険証を一定期間に限って利用できるようにすることも検討している。これは現在も、保険証を紛失したり保険料を滞納したりした人に「資格証明書」を発行する仕組みはあるが現行保険証の廃止後、マイナカード自体を持たない人や、保険証機能を登録しない人が申請すれば「確認書」を発行するという内容である。  マイナ保険証への切り替え時期(来年秋)までに、住民皆様、特にマイナカード未取得の方や保険証機能を登録されない方へ当該「確認書」の趣旨を改めて事前に理解頂くことは、マイナカード取得率の向上及び国保税納付への啓蒙を図る好機と思うが、認識を尋ねる。  ※事前理解への啓蒙内容(例) ・皆保険制度の趣旨 ・マイナ保険証のメリット ・保険証機能を登録しない場合のデメリット等	町長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
9	8	黒田員米 (一問一答)	デジタル田園健康特区について	①デジタル田園健康特区事業を積極的に推進するために庁内組織内へ専門部署の設置を。 ②令和4年度のデジタル田園の各事業の進捗状況は。 ③きびアプリ運営実施組織として行政・福祉事業所・企業等からの出向による推進組織の設置を。 ④モバイルクリニック(移動診療所)の導入を次期計画に含めるべきではないか。	町長
			子育て・福祉支援について	①きびプラザ施設内へ授乳・オムツ交換・カームダウン等のスペース設置を。 ②統合後のこども園のオムツ処理は園処理とすべきでは。 ③小中学校女子トイレでの生理用品配付を。	町長
			町情報のPRについて	①町の子育て支援など、町の情報がしっかりと対外的にPRできていないのではないか。	町長
			道路保全について	①地域内の山林で伐採を行った際にその搬出作業で道路が損壊することがあるが、作業事前協議で責任の所在を確定し、場合によっては原因者に復旧を求めるべき。	町長
			酪農家支援について	①酪農家への継続的な支援を。 ②町村会等を通じて国の農政へ根本的な変革を申し入れすべき。	町長